

パートⅢ

学習会

「もっと知ろう手賀沼～といまく環境」

日時 2013年8月3日(土) 10時～12時(開場9時30分)

会場 松戸市六実市民センター 2階会議室

定員 40名(定員になり次第締め切り) 対象 中学生以上

申込み・問合せ先 松戸市環境保全課 TEL 047-366-7337・FAX 047-366-1325

1. 基調講演 「今、私たちをといまく大気は」

PM2.5の現状、農薬散布汚染によるミツバチの減少、そして3.11事故から高濃度の放射性物質が大気汚染経由で飛散して来た状況と大気に含まれている物質などについて

講師 藤原寿和

化学物質問題市民研究会 代表 / 有害化学物質から子どもの健康を守る千葉県ネットワーク 代表
廃棄物処分場問題全国ネットワーク 事務局長 / NPO 法人有害化学物質削減ネットワーク 理事

●質疑 応答

2. 松戸市から水質モニタリングの報告

松戸市環境保全課課長 清水芳子

3. 手賀沼流域フォーラム実行委員会の報告

手賀沼流域フォーラム実行委員会松戸 中岡文恵

今の手賀沼の水質は27年間、ワースト1が継続していた時よりはととてもきれいになりました。それは長年にわたり国、県、市町村が多くの資金を投入して流域下水道の整備や河川浄化対策として様々な活動を繰り返してきたからです。

何よりも流域に住む人々が関心を持ち、生活を見直した事も大きな成果に。さらに霞ヶ浦を控える利根川の水を手賀川に取り入れ、沼の外側を経由して柏市まで長い太い管が旅をする北千葉導水事業も大きな役割を果たしました。手賀沼に利根川の水を入れて澱んだ沼の水を動かす、一方では大量の水を直に大堀川から江戸川まで運ぶ大きな事業で北千葉導水ビジターセンターなどは2000年に稼働開始しました。江戸川流域は埼玉県三郷市、千葉県松戸市、東京都金町等の浄水場で取水されて大切な飲料水として供給されます。

このように大きな役割を持つ川や手賀沼にも様々な化学物質が流入します。世界的なミツバチの減少は、水田等で散布されるネオニコチノイドという農薬が原因との疑いが強まりました。手賀沼流域でも空中散布が長年行われてきました。さらに私たちが流している生活排水、畑、水田など全ての排水が手賀沼に流入しています。それらは蒸発をして雲になり、雨になり、雪になり降ります。浄水場で取水した水は多量の塩素をかけて飲み水として戻って来ます。その手賀沼が24年度はワースト2に戻り、残念です。みんなが少し気をつけた生活で美味しい水道水を飲むことが出来ます。その上莫大なお金もつぎ込まなくても済みます。

藤原寿和氏は公害病の水俣病に長く携わり、東京都環境局で大気や水環境の仕事をされ、福島原発事故が起きてからは、放射能汚染された震災がれきの処理問題などに今も奔走されています。そんな状況もお聞きして皆様と意見交換をして正しい判断ができるような学習会にしたいと思います。

土曜日の午前中の学習会ですが、お誘い合わせでの参加をお待ちしています。